

会員の広場



大谷翔平活躍の背景と教訓

山田 豊（東京）

ロサンゼルス・エンゼルスの大谷翔平の活躍の原点は、花巻東高校時代に佐々木洋監督の指導のもとに作成した目標達成チェックシートにあったのではないかとみている。9×9の81個のマスの中に高校3年間で達成すべき目標を書き込む。体・技・心の強化を中心に据えながらも、思いやり・感謝・挨拶など人間性の向上が謳われている。

投打二刀流の実現に向けて、このチェックシートをもとに、日々鍛錬・努力を重ねた。目標管理シートについては、箱根駅伝で連覇を達成した青山学院大学陸上競技部監督の原晋氏も有効活用されている。

花巻東高校時代を振り返り、大谷翔平は「佐々木監督によるチームとしての「決して諦めない」というスローガンもそうですが、「先入観は可能を不可能にする」という言葉は今でもはっきり覚えています」と語っている。投打二刀流は世の中の常識に合わず無理筋だとの先入観にとらわれれば、大谷の二刀流挑戦はなかったかもしれない。幸いなことに佐々木監督のモットーは、「非常識の発想をすることで、新しいものが生まれる」であり、メジャーでの二刀流挑戦を心から喜んでいる。

佐々木監督は日ごろから、「試合で100%の

力を発揮するためには、200%の準備が必要である」を指導方針としていたが、それを真面目に実行したのが大谷翔平だった。一日13杯のご飯を義務付けて体を大きくし、打者として強い球を打ち、投手としては速いストレートを投げ込む。完璧なアスリートになるため、心身ともに鍛え上げることには意を注いだ。あくまで高い目標を掲げさせるというのが監督の流儀だった。

プロ野球日本ハム入団以降は、栗山英樹監督がその意志を継いだ格好になった。二刀流について懐疑的な意見・批判があるなかで、栗山監督は、「翔平のような「世界でただ一つの素質・才能」の形や枠を簡単には決めてはならない、壁や天井のある場所においてはならない。決められるのは、「野球の神様だけだ」と語っている。

「メジャーのトップにいきたい。長く野球を続けたい。何か新しいことを、他人がしたことがないことをやりたい」という大谷翔平の願い、夢をかなえさせたのが、佐々木監督及び栗山監督の両雄だった。二人の理解ある監督との出会い、一期一会のご縁を引き寄せられたのは、大谷翔平の実力と人間性であったのではなからうか。こうした二刀流への深い理解はエンゼルススのジョー・マドン監督にも継承されているので、大リーグ5年目にあたる今期も怪我無く柔軟な適応力を維持していければ、大きな活躍は間違いないだろう。

（大谷翔平の活躍の詳しい背景などについては、拙著「夢への挑戦と保安経営の真髄」（時評社刊）を参照していただきたい）

〈注〉関係者の言葉は、雑誌、新聞等から引用させていただいた。